



## 無形民俗文化財

いいだ とろ やままつ

### 64. 飯田燈籠山祭り

■指定年月日 平成8年7月8日(1996)

■執行日 7月20、21日

■所在地 飯田町

■保存団体 飯田燈籠山保存会

夏祭りの幕開けを告げる飯田町の燈籠山祭りは、にぎやかな笛・太鼓の祇園囃とともに、多くの人々で賑わいを見せる。

祭りは、20日に春日神社から御飯屋までの神輿かすがと燈籠山巡行の神事、21日には各町内への巡行が行われる。高さ約16m、重さ約5.5tの燈籠山3基と山車6基が、若衆の木遣り歌(キョーラゲ)を合図に、笛・太鼓・鉦おかりやの音と曳き手が調和して町内を巡行する。この木遣り歌は、江差の鯨場の唄を参考にしたとも、町民が各地を巡り、飯田の地方色を加味して創作したとも伝えられている。

祭礼の正式名称は「おすずみ祭り」であり、江戸時代の寛永年間(1624～1644)初期の土用入り

の暑い頃、氏神である武甕槌命たけみかづのみことあまのこやねのみこと、天児屋根命のほか、5柱の神々に町へ夕涼みにお出まし願ったのが始まりとされている。それが長い年月を経て今の燈籠山人形の型になったのではないかと伝えられている。そして文化11年(1814)の春日神社勧請550年大祭の後、大きな山車が造られるようになったと言われている。しかし、大正の初めに始まった電線の架設のため、燈籠山は曳けなくなってしまい、燈籠をはずして、地山・屋台部分のみの巡行となっていた。昭和58年(1983)に燈籠山1基が復活を果たし、道路改良とともに、他の山車も順次燈籠山に復元する努力が続けられている。